

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 02-149834

(43)Date of publication of application : 08.06.1990

(51)Int.Cl.

G03B 17/24

(21)Application number : 63-304852

(71)Applicant : CANON INC

(22)Date of filing : 30.11.1988

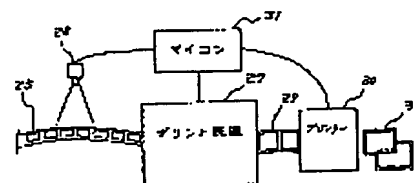
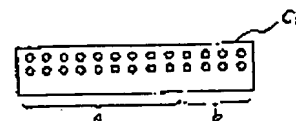
(72)Inventor : EGAWA TAKESHI

(54) DATA RECORDING CAMERA

(57)Abstract:

PURPOSE: To record data correctly by adding regional data composed of codes to time data composed of year, month and day; or hour, minute and second.

CONSTITUTION: The title camera is the one which has a recording means capable of recording data near each frame of a photographing film if necessary. The regional data composed of codes is added to the time data composed of year, month and day, or hour, minute and second. A film 25 where a time code (a) and a regional code (b) are recorded is processed by a printing device 27 and a desired current time is imprinted on the plane of the film 25. Thus, data can be recorded correctly.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

拒絶理由通知書

特許出願の番号	平成11年 特許願 第140325号
起案日	平成17年10月28日
特許庁審査官	伊藤 昌哉 8808 2M00
特許出願人代理人	渡辺 望稔 様
適用条文	第29条第2項、第36条

<<<< 最 後 >>>>

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

1. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

請求項9～16に対して 引用文献1～4

引用文献1には、撮影日時、撮影位置、撮影方位、撮影倍率を含む撮影情報に基づき、地理データベースから撮影地名、被写体主題を検索し、撮影画像に付加して再生する方法が記載されている。

引用文献1の方法では、撮影画像、撮影情報をフロッピーディスクに記録する構成であるが、撮影情報を、写真フィルムに、デジタルビットパターン化して、光学的に焼き付ける方法は、引用文献2～4等にも示されるように周知であるから、引用文献1の方法において、撮影画像、撮影情報を写真フィルムに焼き付けたものとすることは、当業者には容易である。

引 用 文 献 等 一 覧

1. 特開平9-37203号公報
2. 実願昭63-70009号(実開平1-173730号)のマイクロフィルム
3. 特開平3-135535号公報

4. 特開平2-149834号公報

2. この出願は、特許請求の範囲の記載が下記の点で、特許法第36条第6項第1号に規定する要件を満たしていない。

記

請求項5、21について

本願の発明の詳細な説明（特に、段落【0051】参照）には、撮影位置、撮影方位、撮影倍率、地図データベースの全てを利用して、被写体を特定する方法が記載されるのみである。

請求項5、12の記載では、撮影位置、撮影方位、撮影倍率、地図データベースのうちの一部のみから被写体を特定する方法が含まれるが、このような方法は、発明の詳細な説明に開示されていない。

よって、請求項5、12に係る発明は、発明の詳細な説明に記載したものではない。

この拒絶理由通知書中で指摘した請求項以外の請求項に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

最後の拒絶理由通知とする理由

1. 最初の拒絶理由通知に対する応答時の補正によって通知することが必要になった拒絶の理由のみを通知する拒絶理由通知である。

<補正に際しての注意>

(1) 明細書を補正した場合は、補正により記載を変更した個所に下線を引くこと（特許法施行規則様式第13備考6）。

(2) 補正の際には、補正で付加できる事項は、この出願の出願当初の明細書又は図面に記載した事項のほか、出願当初の明細書又は図面の記載から自明な事項に限られ、且つ特許請求の範囲の限定的減縮、不明瞭な記載の釈明又は誤記の訂正を目的とする補正に限られることに注意し、意見書で、各補正事項について補正が適法なものである理由を、根拠となる出願当初の明細書の記載箇所を明確に示したうえで主張されたい。（意見書の記載は、無効審判における訂正請求書の記載形式を参考にされたい。）

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第1部 ナノ物理

TEL. 03 (3581) 1101 内線3274

FAX. 03 (3592) 8858

⑩ 日本国特許庁(J P)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平2-149834

⑬ Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)6月8日

G 03 B 17/24

7542-2H

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全6頁)

⑮ 発明の名称 データ記録カメラ

⑯ 特 願 昭63-304852

⑰ 出 願 昭63(1988)11月30日

⑱ 発 明 者 江 川 全 神奈川県川崎市高津区下野毛770番地 キヤノン株式会社

玉川事業所内

⑲ 出 願 人 キヤノン株式会社 東京都大田区下丸子3丁目30番2号

⑳ 代 理 人 弁理士 丸島 儀一

明 細 書

1. 発明の名称

データ記録カメラ

2. 特許請求の範囲

撮影フィルムのフィルム面あるいは該撮影フィルムを収納するためのフィルムカートリッジの適所あるいはその他の記録手段に、必要に応じてデータを記録することのできる記録手段を有するデータ記録カメラにおいて、年月日あるいは時分秒等から成る時間データにコードでなる地域データを付加するように構成したことを特徴とするデータ記録カメラ。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明はデータ記録カメラ、更に詳しくは日付等のデータをフィルムに写し込むことが可能なデータ記録カメラに関する。

〔従来の技術〕

従来、上述のようなデータ記録カメラにおいては、いずれも記録されるデータは撮影者が確認で

きる数字や文字の形態で撮影画面内のすみに写し込まれるように構成されている。ここで記録される数字は、例えば1つの数字に対し7セグメントの液晶素子を用いて、日時分というように6桁の表示で、カメラ内に配設された時計からの時間データに基づいて、シャッターレリーで操作のタイミングに同期して写し込みが行なわれている。〔発明が解決しようとしている問題点〕

しかしながら、上記従来例では撮影画面内にデータが記録されるので、画面内の背景が明るすぎると写し込まれたデータにコントラストが生じないのでデータが読みづらくなるという欠点があった。さらに、焼き付け時にトリミングを行なった場合、写し込まれたデータがトリミングの枠外に出ているとプリントされた写真にはデータが記録されないという不具合がある。

あるいは、カメラを海外旅行に持っていき、撮影を行なった場合、本国時刻と現地時刻との間に時差があるために、カメラ内の時計データを修正しなければならず、特に旅行する国が複数である

場合には、例えば飛行機による移動の度に修正が必要で極めてわずらわしいものであった。また、例えばアメリカのように季節により夏時間、冬時間を切り換えて使用している場合もあり、旅行者には修正の仕方がよく分からない場合もある。さらに、本国に帰国した際には再び本国時刻に修正する必要があるが、日付変更線を通過するタイミングが分からず、いつ修正してよいか理解できない場合が多い。また、時計の修正については、少ない操作ボタンによって順次時、分等の数字を変更していくので、操作がわずらわしく時間も長くなるので改善が望まれていた。

〔課題を解決するための手段〕

本発明は上記従来例の欠点を解消するもので、撮影フィルムの各コマの近傍に必要なに応じてデータを記録することのできる記録手段を有するデータ記録カメラにおいて、年月日あるいは時分秒等から成る時間データにコードでなる地域データを付加するように構成したことを特徴とするものである。

側から見た平面図で、同図において15はカメラボディ1に対し開閉自在に枢着された背蓋、16は該背蓋15に設けられたLCD等から成る表示手段、17は複数個の押ボタンから成る操作手段である。

次に本実施例のカメラの電気回路について、第4図のブロック回路図を用いて説明する。同図において、18はマイコンで、該マイコン18はカメラの各撮影シーケンス及び日付情報等の記録の制御、さらに周辺回路へのインターフェイスを行なうものである。16は前記第3図にて説明した表示手段であり、日付やフィルムのコマ数等を表示するものである。19は、フィルム上に日付等の情報を写し込むための記録手段である。201は時計手段であり、標準時間である年月日、時分秒等を正確にカウントするものである。21は地域入力手段であり、例えばボタンスイッチを1回押すごとに地域が切り換わりその地域情報がマイコン18に入力される。22はシャッター手段、23はピント制御手段、24は給送手段であり、

〔実施例〕

以下、本発明の一実施例を図面に従って説明する。第1図は、本発明の適用されるカメラの斜視図であり、同図において、1はカメラボディ、2は撮影レンズ、3はリリースボタン、第2図はカメラボディ1を裏側からみた平面図で、説明が容易なように背蓋を取り外した状態を示している。同図において、4はフィルムパトローネを収納するパトローネ室、5はフィルムの光軸方向の位置規制を行なう上下一対の内レール、6はフィルムの上下方向の位置規制を行なう上下一対の外レールである。7はスプール室、8はフィルムを巻き取るスプールである。9はファインダ、10は後述の背蓋が嵌合する背蓋溝である。11はアバーチャ、12は該アバーチャ11の近傍に設けられた複数の(本実施例では2個)の発光部材で、該発光部材12は複数の情報をコードとしてフィルムに写し込むためのものである。該発光部材12としては例えば発光ダイオードが用いられる。さらに、第3図はカメラボディ1を裏

それぞれマイコン18によって制御されてカメラの諸動作を行なうものである。

次に本発明により、フィルムにデータを記録する場合について具体的に説明する。第5図はコードにて情報の記録されたフィルムの一例を示す平面図、第6図はコードを拡大して示す平面図、第7図は地域コードの一例を示す図である。

これらの図において、25はフィルム、26は該フィルム25の幅方向両端部に同一ピッチで複数個穿設された公知のパーフォレーションであり、このフィルム25はカメラボディ1の前面から見た状態を示している。さらにF₁は撮影済のコマ、C₁は該コマF₁に対応するコードである。ここでコードC₁は、コマF₁の外側に記録されていることがわかる。本実施例では、コードC₁は上下2列でそれぞれフィルム25の長手方向に複数個並ぶように構成されているが、これらは前述のような上下2個の発光部材12により、例えばフィルム25の巻き上げ等の走行中に写し込まれるようになっている。なお、第6図のコー

FC、はドットが全て写し込まれた場合を示して、年月日時分を示す時間コードaと地域を示す地域コードbとから構成されている。ここで時間コードaには、例えば0～99年、1～12月、1～31日、0～23時、0～59分の情報が含まれている。次に、地域コードbについては、例えば第7図に示すようなコードがそれぞれ設定される。同図において、全世界をアジアA、ヨーロッパB、アメリカC、オーストラリアD、その他Eの5つのブロックに分けている。さらにアジアAの中が、例えば日本、中国、韓国、フィリピン、台湾、インドの6つの地域に分けられ、それぞれに異なるコード(00～05)が設定されている。ヨーロッパB、アメリカCについても同様に複数の地域に分けられ、それぞれに異なるコードが設定されている。オーストラリアDについては、本実施例においては単一の地域となっているが国土が広いので複数の地域に分けるようにしてもかまわない。その他Eは、前述の地域A、B、C、D以外の地域コードを入力する際

構成要素には同一の符号を付けその説明は省略する。第8図において、F₂は撮影済のコマ、3種類の組み合わせから成る情報d、e、fは前記コマF₂に対応するものである。ここで、情報d、e、fは前記第1実施例と同様にコマF₂の外周に記録されていて、このうち、情報dが「年、月、日」、情報eが「時、分」、情報fが「地域」をそれぞれ示すようになっている。前記第1実施例では、年月日、時分及び地域を2進符号化したコードにてフィルムに記録させていたが、本実施例では従来のカメラの日付写し込みと同様に7セグメントのデジットを用いている。このようにすれば、従来の日付写し込み装置を容易に流用することが可能となる。さらに、前記情報はフィルムの画面外に写し込まれているのでプリント後の写真に影響を与えない。

第9図は、第8図に示すコマF₂から得られたプリントP₁の一例を示している。本実施例においては画面外にデータが記録されているが、前記情報dから、「1988年8月15日」なるデー

に用いるものである。さらに、E₁はその他の時刻を入力する際に用いるもので、時刻を進めたり遅れさせたりすることのできる第1の入力手段である。E₂は現地にて、その土地の時刻を入力することのできる第2の入力手段である。

以上の構成により、時間コードaと地域コードbの両方が記録されたフィルム25は、不図示のプリント装置にて処理されて所望の現地時刻がフィルム面に写し込まれるようになっている。詳しい説明は省略するが、例えば不図示のコードデータ読み取り装置にて、プリント前にフィルム25に記録されたコードを読み取り、このコードに対応した現地時刻をフィルム面に写し込むようになっている。

〔他の実施例〕

第8図及び第9図は、本発明の第2実施例を示すものであり、第8図はデータの記録されたフィルムの一例を示す平面図、第9図は第8図のコマF₂によるプリントの一例を示す平面図である。

これらの図において、前記第1実施例と同様の

タが記録され、数字の間に文字が入るので見やすい表示となっている。さらに、情報e、fから「20:30」なるデータが記録されるが、これは地域コードが24は第7図に示すようにハワイであるので、15時30分が現地時間の20時30分に自動的に変換されたことを示している。次に、情報fから地域名である「ハワイ」なるデータがカタカナで記録されるが、これはアルファベットで記録するようにしてもかまわない。さらに、第7図にて説明した地域コードをもっと細かく設定し、多数の観光地にコードを持たせるように構成すれば、現地にて数字を入力するだけで「伊豆下田」「摩周湖」といったデータを記録することが容易にできる。

第10図は本発明の第2実施例に対応するプリント装置の概略図、第11図は該プリント装置のフローチャートである。

第10図において、25は前述のフィルムであり第8図に示すようにカメラ側ですでに情報d、e、fが記録されている。27はプリント装置で

あり、28はフィルム25がプリント装置27に入る前に情報d、e、fを読み取るためのカメラ、29は連続されたプリント、30は日付等をプリント上に記録するためのプリンタ、31は前記プリント装置27、カメラ28、プリンタ30を制御するためのマイコン、32は前記プリンタ30から排出、切断されたプリントである。

第10図の動作を説明すると、まず現像された情報付きのフィルム25（いわゆるネガフィルム）がプリント装置27に入ると、印画紙にプリントされ、プリント29が得られる。該プリント29は直ちにプリンタ30に入り、日付等のデータが記録され、切断されたプリント32として出力される。これらの動作は全て、マイコン31によって制御されていて、カメラ28によってフィルム25上の情報が読み出され、該情報がフィルムのコマ番号と共にマイコン31に記憶される。マイコン31は、取り込まれた情報を前述の地域コードによって処理して、データをプリンタ30に送信し、対応するプリントに日付、地域等

の情報を記録する。

以上説明した動作のフローチャートを、第11図に示している。同図において、#1にてフィルム25よりコマ番号を読み込み、#2にてさらに情報を読み込む。#3ではプリント装置27にて、プリントを行ない、#4では年月日時分等のデータを修正し、記憶する。#5では、プリンタ30においてプリント29からコマ番号を読み込み、#6では、対応するコマ番号の年月日時分を記録し、プリント32を得る。

前記第1実施例ではフィルム情報を記録するのに2個の発光ダイオードを用いたが、これに限定することなくドットを表示するLCDを用いてもかまわない。

さらに、前記実施例においてはフィルム面に直接データを記録するように構成したが、これに限定することなくフィルムを収納するためのフィルムカートリッジ（代表的なものとしてフィルムパトローネ）の適所、例えば外周部分にデータを記録するようにしてもかまわない。又、PROM、

EPROM、EEPROM等の不揮発メモリから成る記憶部を有するメモリカード等の記録手段に、データを記録するようにしてもかまわない。

〔発明の効果〕

以上説明したように、本発明によればフィルムの撮影画面外にデータを記録するように構成したので、画面内の背景が明るすぎても写し込まれるデータが読みづらくなるという心配がない。さらに焼き付け時にトリミングを行なっても、データが記録されないという不具合が解消できる。

又、フィルムに標準の年月日時分と撮影した地域のコードを記録することができるので、後のプリント処理でその地域に対応した正確な現地時刻が自動的に写し込まれる。従って、例えば海外旅行で土地が変わる毎くに、カメラの時刻を設定し直すという必要がなくなり操作性が極めて向上する。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明のカメラの斜視図、第2図は同カメラを背蓋を取り外した状態で裏側から見た平

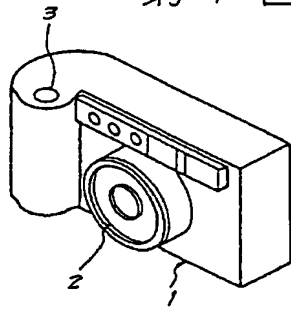
面図、第3図は第1図のカメラを裏側から見た平面図、第4図は本発明のカメラのブロック回路図、第5図は撮影フィルムの平面図、第6図はコードを拡大して示す平面図、第7図は地域コードの一例を示す図、第8図乃至第11図は本発明の第2実施例を示すもので、第8図はデータの記録されたフィルムの一例を示す平面図、第9図は第8図のコマF₂によるプリントの一例を示す平面図、第10図は本発明に用いるプリント装置の概略図、第11図は第10図のプリント装置のフローチャートである。

- 1…カメラボディ
- 25…フィルム
- a…時間コード
- b…地域コード
- C₁, C₂…コード
- F₁, F₂…コマ

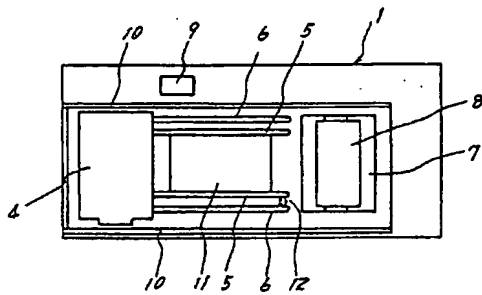
出願人 キヤノン株式会社
代理人 丸 島 備 一



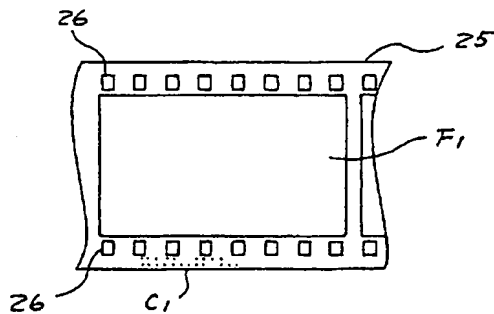
第1図



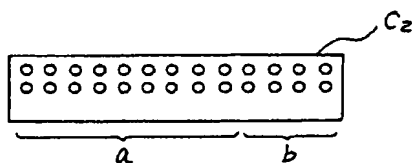
第2図



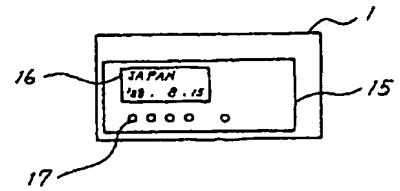
第5図



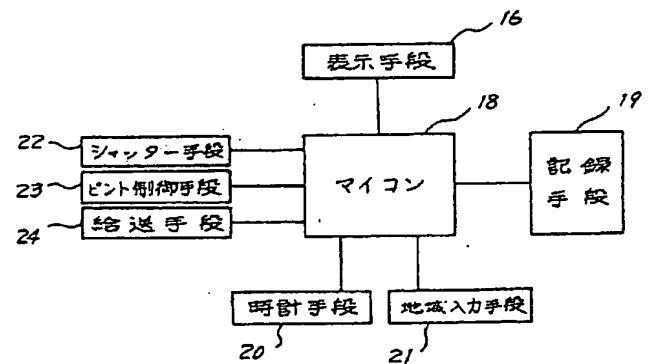
第6図



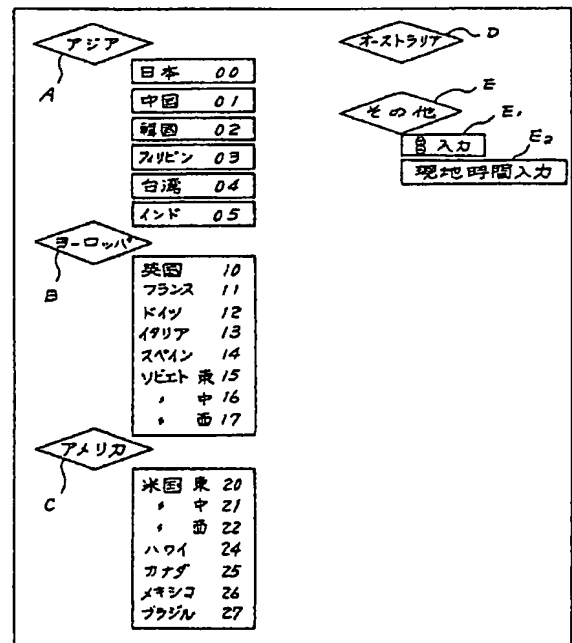
第3図



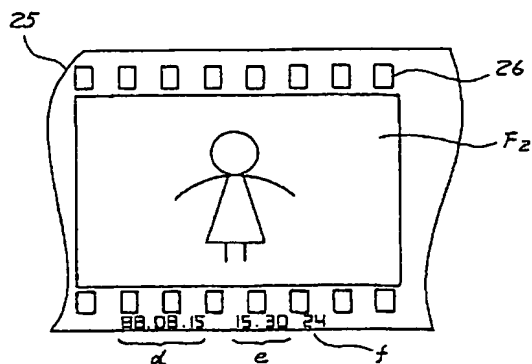
第4図



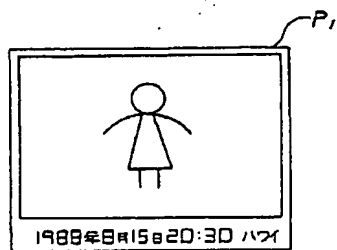
第7図



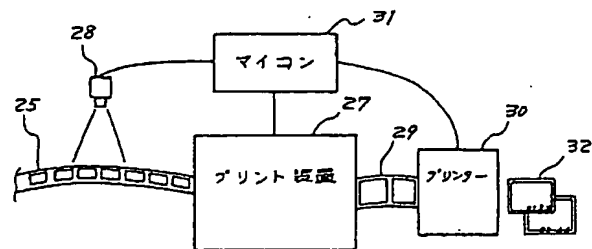
第 8 図



第 9 図



第 10 図



第 11 図

